

主な製品名	機能概要
library core	
基本機能	
Web Application F/W	画面表示のロジックを実装する上での基礎となるコンポーネント。MVCモデルと呼ばれるWebアプリケーションの標準的な構成により実装する機能を明確にし、開発・保守の容易性を向上。
システム連携	他のシステムとのデータ連携処理を担うコンポーネント。WebサービスやHTTP、FTPといった連携方式に対応。開発者は連携方式を意識することがなく、連携されるデータの処理に実装を集中することが可能。
データアクセスオブジェクト	データベースとのやり取りを担うコンポーネント。コネクションの管理などの複雑な処理は自動的に実行され、処理の実装を簡素化。また、各種RDBMSに対応しており、RDBMS側でのテーブル・カラム名の変更などによる影響を実装に波及させない仕組みを実現。
セキュリティフィルター	ユーザーの所属や役職などといった情報に応じて、取得したデータのフィルタリングをおこなうコンポーネント。
権限処理	ユーザーの所属や役職などといった情報を用いた権限の判定を行う枠組みを提供するコンポーネント。これによりユーザーごとの画面表示の変更や、サービス利用制限などの実装を簡素化。
Value Object	ライブラリが提供するコンポーネント間のデータ流通に利用されるコンポーネント。メタ情報と業務データにより構成される。業務データは要件に応じて自由に設計できる。
ログ出力	ログの出力を担うコンポーネント。出力先や出力形式、ログレベルなどを外部定義ファイルにより制御できる仕組みを提供。
行政基礎	行政基礎情報（行政が本来の行政機能を果たすために必要な普遍的な根底の情報）の収集、提供に必要な部品群。
library option component	
EUC汎用検索	汎用的な条件でDBMSからデータを取得できるWebシステム。取得する項目や取得の為の条件などを定義ファイルに記載することで検索画面・ロジックを自動生成。抽出されたデータはCSVに出力可能。
データ連携オプション	他システムとのデータ連携に関するオプション製品。
データ更新	データ発生源からのデータを統合DBに反映する仕組み。Webサービスや固定長ファイル、CSVデータを受け付けることができ、設定により値のチェックやコード値の変換、履歴情報の管理などを実施。
データ検索	統合DBの情報を、利用側オープンシステムにデータ提供する仕組み。Webサービスのインターフェースが設けられ、設定により提供する項目やパラメータなどを簡易に設定可能。
データ提供	情報種別毎に設定したトリガータブルを監視し、更新されたデータを利用側システムに提供する仕組み（Push型）。データ更新と組み合わせることでデータ発生源からの異動データを自動的に利用側システムに提供可能。
library template	
共通コード管理	共通的に利用可能なコード（名称、値）を汎用的に管理するWebシステム。適用先毎の要件に対応できるよう、ソースコード（ひな形）提供。
業務支援 template	
個人状況照会	窓口業務にて利用することを想定したWebシステム。統合DBから個人番号をキーとして個人の各種情報を横串で閲覧するような用途を想定。適用先ごとの要件に対応できるようにソースコード（ひな形）提供。
番号制度 option	
統合宛名機能	統合DB内の住民情報、住登外情報と連携し、団体内統合宛名番号の採番および番号情報の紐付け情報を管理。中間サーバとの連携も実施（符号要求、4情報連携など）。業務システムが中間サーバーインターフェースを有する場合は中間サーバーへの中継処理も可能。
副本登録機能	統合DB内の特定個人情報情報を自動収集し、中間サーバーに副本登録を実施。業務グループに応じ登録先の中間サーバーを切り替え可能。業務システムが中間サーバーインターフェースを有する場合は中間サーバーへの中継処理も可能。
情報照会機能	統合DB内の照会要求情報を自動収集し、中間サーバーに照会要求を実施。業務グループに応じて照会要求する中間サーバーを切り替え可能。業務システムが中間サーバーインターフェースを有する場合は、中間サーバーへの中継処理も可能。定期的な中間サーバーに対し照会結果を確認し、照会結果内容を取得する。